

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
I 審議事項					
1. 委員会関係					
提案1	(分野別委員会) (1)委員会委員の決定 (追加1件)	第二部部長	B(7)	分野別委員会における委員の追加を決定する必要があるため。	第二部部長 内規18条
提案2	(機能別委員会) 国際委員会 (1)運営要綱の一部改正(新規設置1件) (2)分科会委員の決定(新規1件)	(1)国際委員会委員 長 (2)会長	B(9-12)	国際委員会に持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2020分科会を設置することに伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。 ※国際委員会5月27日承認	武内副会長 (1)国際委員会運営要綱第2、(2)日本学術会議の運営に関する内規第12条2項4号
2. 提言等関係					
提案3	提言「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	健康・生活科学委員会委員長	C-1(1-42)	健康・生活科学分科会家政学分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	健康・生活科学委員会家政学分科会小川宣子委員長、鈴木恵美子委員 内規3条1項

提案4	提言「パワーレーザー技術と高エネルギー密度科学の量子的飛躍と産業創成」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	総合工学委員会委員長	C-1(43-90)	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第三部査読	総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会ハイパワーレーザーによる高エネルギー密度科学小委員会近藤駿介委員長、エネルギーと科学技術に関する分科会三間園興委員	内規3条1項
提案5	提言「初等中等教育及び生涯教育における地球教育の重要性：変動する地球に生きるための素養として」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	地球惑星科学委員会委員長	C-1(91-135)	地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第三部査読	地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会木村学委員長、西弘嗣幹事	内規3条1項
提案6	提言「ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	C-1(136-164)	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会小松浩子委員長、西村ユミ幹事	内規3条1項
提案7	提言「住居領域における専門教育と資格教育のあり方」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	健康・生活科学委員会委員長	C-2(1-43)	健康・生活科学委員会家政学分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	健康・生活科学委員会家政学分科会小川宣子委員長、宮野道雄委員	内規3条1項

提案8	提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	第二部長	C-2(44-79)	第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※第二部査読	第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会 秋葉澄伯委員長、糠塚康江幹事	内規3条1項
提案9	提言「オープンサイエンスの深化と推進に向けて」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会委員長	C-2(80-121)	オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表したいため。 ※科学と社会委員会査読	オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会 喜連川優委員長、引原隆士副委員長、安達淳幹事、林和弘委員、山地一禎オブザーバー	内規3条1項

3. 国際関係

提案10	令和2年度代表派遣実施計画の変更について	会長	B(13-15)	令和2年度代表派遣について、実施計画の変更を決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第21条2項
提案11	令和2年度共同主催国際会議の取り扱いについて	会長	B(17)	令和2年度共同主催国際会議の取り扱いについて決定する必要があるため。	武内副会長	国際交流事業に関する内規第34条1項

4. その他のシンポジウム等

提案12	公開シンポジウム「安全工学シンポジウム2020」	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	B(19-21)	主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 日時：令和2年7月1日(水)～3日(金)10:00～17:00 場所：Zoomを用いたオンライン・シンポジウム ※第三部承認	—	内規別表第1
------	--------------------------	-----------------------	----------	--	---	--------

提案13	公開シンポジウム「人文学の国際化と日本語	言語・文学委員長	B(23-24)	主催：日本学術会議言語・文学委員会人文学の国際化と日本語分科会 日時：令和2年7月19日（日）13：00～16：30 場所：web開催 ※第一部承認 ※第287回幹事会承認済みの公開シンポジウムについて、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みインターネット配信に変更することとし、開催時間、構成等の変更を行うもの	—	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム「学術研究と科学技術基本法—その科学史技術史的検討」	史学委員会委員長	B(25-26)	主催：日本学術会議史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会 日時：令和2年7月26日（日）13：00～16：00 場所：web開催 ※第一部承認 ※第287回幹事会承認済みの公開シンポジウムについて、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みインターネット配信に変更することとし、日程、構成等の変更を行うもの	—	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム「壁を超える—ジェンダーがつなぐ未来へ」	科学者委員会委員長	B(27-28)	主催：日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会 日時：令和2年8月31日（月）13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（あるいはサイバーシンポジウム開催） ※科学者委員会承認	-	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム「毒性学研究のこれから～「外」からみた毒性学」	薬学委員会委員長、食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長	B(29-30)	主催：日本学術会議 薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会 健康・生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会 日時：令和2年9月11日（金）13：30～16：30 場所：Web開催 ※第二部、第三部承認	-	内規別表第1

II その他

件名	資料(頁)
----	-------

1.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は6月11日(木)13時30分開催予定	D(1)
----	--	------

【分野別委員会】

○委員の決定（追加 1 件）

（第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
磯部 哲	慶應義塾大学大学院法務研究科教授	連携会員

構成：15名以内の会員又は連携会員

提案2

○国際委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
別表1				別表1			
分科会 (略)	調査審議事項 (略)	構成 (略)	備考 (略)	分科会 (略)	調査審議事項 (略)	構成 (略)	備考 (略)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2019分科会	(略)	(略)	(略)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2019分科会	(略)	(略)	(略)
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2020分科会	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2020を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること	副会長（日本学術会議会則第5条第3号担当）及び会員又は連携会員若干名	設置期間：令和2年5月28日～令和2年9月30日	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

国際委員会分科会の設置について

分科会等名：持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2020分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	国際委員会
2	委員の構成	副会長(日本学術会議会則第5条第3号担当)及び会員又は連携会員若干名。
3	設置目的	本分科会は、持続可能な社会の実現に向けた地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、日本学術会議が年1回開催している国際会議の企画及び実施を目的とし設置する。
4	審議事項	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2020を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関すること。
5	設置期間	令和2年5月28日～令和2年9月30日
6	備考	※新規設置(平成15年から「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」を毎年開催しており、そのための分科会を都度設置している。)

【機能別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2020分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
佐藤 岩夫	東京大学社会科学研究所長、教授	第1部会員	副会長
町村 敬志	一橋大学大学院社会学研究科特任教授	第1部会員	副会長
武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授	副会長、第2部会員	副会長
白波瀬 佐和子	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員	副会長

令和2年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和2年度代表派遣実施計画の変更を行う。

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	ISC アジア太平洋地域諮問会議	4月6日 ～ 4月7日	クアラルンプール (マレーシア)	植松 光夫 連携会員 (埼玉県環境科学国際センター(CESS)総長) 澁澤 栄 第二部会員 (東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響によりビデオ会議に開催形式を変更
2	第22回世界科学データシステム (WDS)科学委員会会議等	4月14日 ～ 4月17日	サンパウロ (ブラジル)	家森 俊彦 特任連携会員 (京都大学名誉教授、京都大学学術情報メディアセンター研究員)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響によりビデオ会議に開催形式を変更
3	G7 Research Summit	5月5日 ↓ 11月25日	オタワ (カナダ)	村山 泰啓 連携会員 (国立研究開発法人情報通信研究機構 ソーシャルイノベーションユニット戦略的プログラムオフィス研究統括)	派遣時期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により延期
4	2020 国際薬理学連合 (IUPHAR) 執行委員会	6月5日 ～ 6月6日	ジュネーブ (スイス)	金井 好克 特任連携会員 (大阪大学大学院医学系研究科教授)	派遣時期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により延期(時期未定)
5	GYA 総会 2020	6月8日 ～ 6月12日	コルカタ (インド)	岩崎 渉 連携会員 (東京大学大学院理学系研究科准教授) 岸村 顕広 連携会員 (九州大学大学院工学研究院応用化学部門・九州大学分子システム科学センター准教授) 安田 仁奈 連携会員 (宮崎大学農学部海洋生物環境学科准教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響によりビデオ会議に開催形式を変更

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
6	第 28 回アジア・オセアニア生化学分子生物学連合会議 (FAOBMB)等	6月11日 ～ 6月13日	コロンボ (スリランカ)	菊池 章 第二部会員 (大阪大学大学院医学系研究科分子病態生化学教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止
7	国際経済学協会(IEA)世界会議	7月3日 ～ 7月7日	バリ (インドネシア)	後藤 玲子 特任連携会員 (一橋大学経済研究所規範経済学センター教授)	派遣時期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により延期(時期未定)
8	第 21 回国際自動制御連盟 (IFAC)世界会議	7月12日 ～ 7月17日	ベルリン (ドイツ)	高橋 桂子 第三部会員 (国立研究開発法人海洋研究開発機構経営管理審議役、横浜研究所長)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響によりビデオ会議に開催形式を変更
9	国際数学連合(IMU)数学教育国際委員会総会	7月12日 ～ 7月19日	上海 (中国)	小山 正孝 連携会員 (広島大学大学院教育学研究科教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響によりビデオ会議に開催形式を変更
10	第 36 回南極研究科学委員会 (SCAR)総会及び公開科学会議	7月31日 ～ 8月11日	ホバート (オーストラリア)	伊村 智 特任連携会員 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長、教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止
11	国際地理学連合(IGU)第34回国際地理学会議(IGC)及び執行委員会	8月14日 ～ 8月21日	イスタンブール (トルコ)	氷見山 幸夫 連携会員 (北海道教育大学名誉教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響により今年度開催中止(1年延期)
				小口 高 連携会員 (東京大学・空間情報科学研究センター教授)	
12	第 43 回宇宙空間研究委員会 (COSPAR)総会及び顕彰委員会及び惑星保護パネル	8月13日 ～ 8月22日 ↓ 令和3年1月28日～2月4日	シドニー (オーストラリア)	新井 康平 特任連携会員 (佐賀大学名誉教授、佐賀大学大学院工学系研究科客員研究員)	派遣時期の変更 ※新型コロナウイルス感染症の影響により延期
				中村 昭子 特任連携会員 (神戸大学大学院理学研究科准教授)	

	会議名称	会 期	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
13	国際生理科学連合 (IUPS) 2021 年大会国際プログラム委員会等	8月20日 ～ 8月24日	天津 (中国)	久保 義弘 連携会員 (自然科学研究機構生理学研究所教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響により今年度開催中止(1年延期)
14	国際宗教学宗教学史学会 (IAHR) 第22回世界大会、理事会、国際 委員会、総会	8月22日 ～ 8月29日	ダニーディン (ニュージーラン ド)	藤原 聖子 第一部会員 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止
15	国際結晶学連合 (IUCr) 総会等	8月22日 ～ 8月30日	プラハ (チェコ共和国)	菅原 洋子 第三部会員 (北里大学名誉教授),	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響により今年度開催中止(1年延期)
				藤間 祥子 特任連携会員 (奈良先端科学技術大学院大学准教授)	
16	国際理論応用力学連合(IUTAM) 総会	8月23日 ～ 8月28日	ミラノ (イタリア)	佐野 理 特任連携会員 (東京農工大学名誉教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響によりビデオ会議に開催形式を変更
17	第33回国際電波科学連合 (URSI) 総会	8月29日 ～ 9月5日	ローマ (イタリア)	八木谷 聡 連携会員 (金沢大学理工研究域教授),	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響により今年度開催中止(1年延期)
				大貫 進一郎 特任連携会員 (日本大学理工学部電気工学科教授)	
18	INGSA2020 政府への科学的助 言に関する国際会議	9月14日 ～ 9月18日	モントリオール (カナダ)	新福 洋子 特任連携会員 (広島大学大学院医系科学研究科教授)	派遣の取りやめ ※新型コロナウイルス感染症の影響により今年度開催中止(来年4月予定)

令和 2 年度共同主催国際会議の取り扱いについて（案）

平成 31 年 4 月 24 日第 277 回幹事会にて令和 2 年度共同主催国際会議として決定された 7 件の国際会議について、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて当初計画通り開催困難となった国際会議のうち 3 件について、下記の通り取り扱う。

・ **第 29 回人工知能国際会議：**

開催時期を 7 月から 1 月に延期した上で、一部対面一部オンライン形式、または完全オンライン形式に変更し、令和 2 年度共同主催国際会議として実施。

・ **第 17 回世界地震工学会議：** 令和 3 年度の共同主催国際会議に追加

・ **アジア熱科学会議 2020：** 令和 3 年度の共同主催国際会議に追加

【参考】

令和 2 年度共同主催国際会議のうち、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止となったものは、以下の通りである。

- ・ 2020 年炭素材料国際会議
- ・ 2020 年世界蛋白質科学会議
- ・ 第 29 回低温物理学国際会議
（令和 2 年度中止。令和 4 年度延期にて検討中）
- ・ 第 79 回国際法協会世界大会

公開シンポジウム「安全工学シンポジウム 2020」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催：(予定)
 一般社団法人電気学会（幹事学会）、特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、公益社団法人低温工学・超電導学会、公益社団法人電気化学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、公益社団法人日本火災学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、特定非営利活動法人日本シミュレーション学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本心理学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、公益社団法人日本冷凍空調学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会
3. 日 時：2020年7月1日（水）～3日（金）10:00～17:00
4. 開催方法：Zoomを用いたオンライン・シンポジウム
5. 分科会の開催：開催予定なし
6. 開催趣旨：
 わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして学術会議主催で40年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し実行委員会を組織しテーマを決めて実施する。2020年度は、第50回として日本電気学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「レジリエントな社会を実現する安心・安全」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取り組みの差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、日本学術会議総合工学委員会、安全・安心・リスク検討分科会で進

めている「安全目標」、「安心感」、「自動運転」をはじめとする検討成果の
広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

7. 次第（案）：

7月1日（水）

開催挨拶 10:00～10:10

日本学術会議 総合工学委員会委員長

吉村 忍（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

パネルディスカッション 10:10～12:00

「安全目標の各分野への展開」

司会 松岡 猛（日本学術会議連携会員、宇都宮大学基盤教育センター非常勤
講師）

パネリスト 野口 和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学 I A S リスク
共生社会創造センター客員教授）、向殿 政男（日本学術会議連
携会員、明治大学名誉教授）、中村 昌允（日本学術会議特任連
携会員、東京工業大学環境・社会理工学院イノベーション科学
系・技術経営専門職学位課程特任教授）、成合 英樹（日本学術
会議特任連携会員、筑波大学名誉教授）、柴山 悦哉（日本学術
会議第三部会員、東京大学情報基盤センター教授）、須田 義大
（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）ほか

特別講演 12:30～13:30

「レジリエントな電力システムの実現（仮題）」

講演者：余利野 直人（広島大学大学院先進理工系科学研究科教授）

基調講演 13:40～14:20

「人の行動を計測する学問-行動分析学の原理と技法」

講演者：北條 理恵子（労働安全衛生総合研究所）

連携パネルディスカッション 13:40～15:40

「外部要因による事故・災害に就いて（地震対応を含む）」（連携PD）

パネリスト 福和 伸夫（名古屋大学減災連携研究センター長・教授）ほか

パネルディスカッション 13:40～16:40

「化学物質管理が創る安全・安心な社会—SAICM2020の真価」
パネリスト 北野 大（秋草学園短期大学 学長）ほか

7月2日（木）10:10～12:00、13:40～17:00

3日（金）10:10～12:00、13:40～17:00

オーガナイズドセッション（日程調整中）

「自動運転の社会実装に向けた取り組み」

司会 永井 正夫（日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長）

「安心感からみた安全と安心」

司会 大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT総合研究所特任教授）

「事故調査の在り方について」

司会 向殿 政男（日本学術会議連携会員、明治大学名誉教授）

「レジリエント製造業を目指す研究開発と技術」

司会 北條 理恵子（労働安全衛生総合研究所）

その他、オーガナイズドセッション13セッション、一般講演9セッション予定

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は主催分科会委員）

※ 今後の状況によっては公開シンポジウムを中止・延期・開催方法変更の可能性あり

※3月の幹事会において承認済みの公開シンポジウムについて、ウェブ形式での開催に変更することに伴い、シンポジウムの開催時間・構成等を変更するもの

公開シンポジウム「人文学の国際化と日本語」

1. 主 催：日本学術会議言語・文学委員会人文学の国際化と日本語分科会
2. 共 催：国立国語研究所・国文学研究資料館（予定）
4. 日 時：令和2年7月19日（日）13：00～16：30
5. 場 所：インターネット上でのオンラインシンポジウム
6. 分科会等の開催：当日午前中にオンライン会議として開催
7. 開催趣旨：本分科会の提言提出の前提として、海外日本研究者をも招いて国際シンポジウムを実施する。我が国学術情報の国際化と国際的学术交流の重要性は、人文学分野においては今世紀初頭より注目され、数々の事業が実施されてきたが、情報発信や海外情報の受容について、いまだ十分とは言えない水準にある。とくに日本及び日本語と関わる分野においては、海外における「日本理解」には不十分の感が拭えないし、実は海外日本研究の実態について、日本国内の研究者が必ずしも十全の理解に達していない実態がある。また我が国からの情報発信についても、海外研究者には不十分と認識されることが少なくない。この最大の原因の一つは、我が国の研究者に外国語（とくに英語）運用能力が決定的に欠けている点に求められてきた。しかしながらそのような問題が存在するのは日本文学などのごく限られた分野のみであり、必ずしも本質的な問題ではない。問題は言語をある種の道具としてのみ捉える発想そのものにある。むしろ人文学の国際化の難しさの背景には、学会や分野の枠を超えた、広汎で深い相互交流の欠如という問題が横たわっているように思われる。以上の認識に基づき、とくに人文学を中心とする我が国学術分野の課題と、国際学术交流における日本語の役割について、本分科会委員を主体に海外有識者を交え、共に考察する機会とするのが、本シンポジウム開催の趣旨である。
8. 次 第：
 - 13：00 開会挨拶 吉田 和彦（日本学術会議第一部会員・京都産業大学外国語学部客員教授・言語学）
趣旨説明 竹本 幹夫（日本学術会議連携会員・早稲田大学名誉教授・日本文学）
 - 13：10～14：40 セッション I 〈言語学分野を中心に〉
司会 吉田 和彦（日本学術会議第一部会員・京都産業大学外国語学部客員教授・言語学）
13：10～13：25 クリス・タンクレディ（慶應義塾大学言語文化研究所教授・理論言語学）

- 13：25～13：40 木部暢子（日本学術会議第一部会員・人間文化研究機構国立国語研究所教授：日本語学）
- 13：40～13：55 窪菌 晴夫（日本学術会議連携会員・人間文化研究機構国立国語研究所教授：言語学）
- 13：55～14：10 平田昌司（日本学術会議連携会員・中国語学）
- 14：10～14：40 討論

14：40～14：50 （ 休憩 ）

14：50～16：20 セッションⅡ〈文学分野を中心に〉

司会 竹本 幹夫（日本学術会議連携会員・早稲田大学名誉教授・日本文学）

14：50～15：05 ロバート・キャンベル（国文学研究資料館館長・日本文学）：依頼中

15：05～15：20 メアリ・ナイトン（青山学院大学教授・日米両文学）

15：20～15：35 沼野 充義（日本学術会議連携会員・名古屋外国語大学教授・ロシアポーランド文学）

15：35～15：50 巽 孝之（日本学術会議連携会員・慶應義塾大学文学部教授・アメリカ文学）

15：50～16：20 討論

16：20～16：30 総括

司会 竹本 幹夫・吉田 和彦

16：30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

※3月の幹事会において承認済みの公開シンポジウムについて、ウェブ形式での開催に変更することに伴い、シンポジウムの開催日程・構成等を変更するもの

公開シンポジウム「学術研究と科学技術基本法—その科学史技術史的検討」（仮）
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会
2. 共 催：未定
3. 後 援：未定
4. 日 時：平成2年7月26日（日） 13：00～16：00
5. 場 所：オンライン方式（Zoom利用を予定）
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：イノベーション政策が明示的に日本の科学技術政策に書き込まれたのは第3期科学技術基本計画（なお、第2期科学技術基本計画では技術革新政策であった）、その後第4期科学技術基本計画において「科学技術イノベーション政策」が謳われ、その一体化政策推進が説かれた。2014年には「総合科学技術会議」は「総合科学技術・イノベーション会議」へと名称を変え、所轄事務等に「イノベーション創出」を記した。第5期科学技術基本計画では「society5.0」が書き込まれ、2018年以降「統合イノベーション戦略」が推進され、総合科学技術・イノベーション会議は「統合イノベーション戦略推進会議」に宇宙や海洋、知財などを所轄する審議会と共に同推進会議の下位審議会に包摂されることになった。

科学技術基本法が法制化されて25年、科学技術基本計画も5期を数える第6期科学技術基本計画の決定に先駆けて、科学技術基本法に「科学技術の振興」に加えて「イノベーション創出」を明示する、また「人文科学のみに係るものを除く」とする規定を削除するなどの「改正」が、今次国会で審議、法制化されようとしている。

こうした状況の中で日本学術会議は本年1月28日に幹事会声明を発信した。

本シンポジウムは、このような状況に鑑み、「科学・技術」を分科会名に冠する会議体のメンバーまた関連学会の研究者をパネリストにして、科学・技術政策と「学術研究」との相関、「学術研究」固有の意義、また「学術研究」がこれまでたどってきた道筋をふりかえりつつ、学術研究体制の今後のあり方について科学史技術史の側から多面的に検討する機会となればと考え、企画するものである。

8. 次 第：(予定)

◇開会 13:00（参加者確認）

◇開催にあたって：佐野 正博（日本学術会議第一部会員、明治大学経営学部教授）

13：30～13：35

◇司 会：兵藤 友博（日本学術会議連携会員、立命館大学名誉教授）

◇各報告の演題とシンポジスト氏名

13：35～14：55

・「学術にとってのイノベーションとは何か ―基本法「改正」の論点との関連で」
兵藤 友博（前掲）

・「ポスト冷戦期日本の科学技術政策をどう捉えるか」

綾部 広則（早稲田大学理工学術院教授）

・「科学技術基本法「改正」と大学の教育研究システム」

高橋 智子（中央大学法学部教授）

・「科学技術基本法「改正」と人文・社会科学」

中村 征樹（日本学術会議連携会員、大阪大学全学教育推進機構准教授）

《休憩》14：55～15：05

◇コメント：

隠岐 さや香（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学研究科教授）

15：05～15：20

◇全体討論：15：20～15：55

◇まとめ：15：55～16：00

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

「壁を超えるージェンダーがつなぐ未来へ」の開催について

1. 主 催：日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
2. 共 催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
3. 後 援：文部科学省、内閣府男女共同参画局（予定）
4. 日 時：令和2年8月31日（月）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（あるいはサイバーシンポジウム開催）
6. 分科会等の開催：（該当のある場合）11：00～12：30 小分科会開催

7. 開催趣旨：

2017年5月に東京で開催した国際会議ジェンダーサミット10（以下GS10）では、科学の世界で男女共同参画を推進することが科学の成果につながることを示す結果が多々発表された。多くの男女がこれらの結果を共有するために、またGS10での成果を継続的に議論し、さらなるジェンダー平等に関する研究を広めるために、毎年フォローアップシンポジウムを開催することとした。2018年6月の第1回では産学官にてどのようなフォローアップ活動をしているか議論し、各大学と機関、企業がそれぞれ工夫をしながら展開していることを確認した。昨年は7月には第2回のフォローアップシンポジウムを開催し、GS10で提案した”Gender Equality 2.0”に焦点をあてて議論し、LGBTなどがこれからの社会の鍵になることを共有した。今年は、男女が様々な壁を越えるための取り組みに焦点をあて、若手の活躍を支援するための最終フォローアップシンポジウムを開催する。

8. 次 第：

- | | | |
|-------------|---------------------------|-------------------------------------|
| 13：00－13：10 | 開催挨拶 | 山極壽一（日本学術会議会長） |
| 13：10－13：20 | 開催挨拶 | 濱口道成（JST 理事長） |
| 13：20－13：25 | 来賓挨拶 | 文部科学省（予定） |
| 13：25－13：30 | 来賓挨拶 | 内閣府男女共同参画局長（予定） |
| 13：30－13：45 | 趣旨説明 | <u>渡辺美代子（日本学術会議副会長、JST 副理事）</u> |
| 13：45－14：15 | 講演 「国境なき医師団が越える壁」 | 黒崎伸子（国境なき医師団日本会長） |
| 14：15－14：45 | 講演 「個性が崩す組織の壁」 | 青野慶久（サイボウズ(株)代表取締役社長） |
| 14：45－15：15 | 講演 「コンピューターサイエンスが越える科学の壁」 | 岩尾エマはるか（Google, Developer Advocate） |

15：15－15：30 休憩

15：30－16：30 パネル討論「若者が越えるジェンダーとジェネレーションの壁」

(ファシリテーター) 森初果 (東京大学物性研究所所長・教授)

行木陽子 (日本IBM(株)技術理事)

(パネリスト) 森山誉恵 (NPO 法人 3 keys 代表理事)

盛島真由 (Beyond Next Ventures) (予定)

中村芽莉 (日本IBM(株)HRコンサルタント)

若手男性研究者 (交渉中)

16：30－16：50 総合討論 (参加者質問に答える)

(ファシリテーター) 伊東昌子 (放送大学長崎学習センター所長)

藤井良一 (情報・システム研究機構長)

16：50－17：00 閉会挨拶

井野瀬久美恵 (甲南大学教授)

司会：伊藤公雄 (京都産業大学教授/ダイバーシティ推進室長)

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

日本学術会議公開シンポジウム
「毒性学研究のこれから ～「外」からみた毒性学」の Web 開催について

1. 主 催：日本学術会議 薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同
毒性学分科会、健康・生活科学委員会・環境学委員会合同
環境リスク分科会

2. 共 催：日本毒性学会（予定）

3. 日 時：令和 2 年 9 月 11 日（金） 13：30～16：30

4. 場 所：Web 開催

5. 開催趣旨：

我が国の毒性学は、公害による健康影響に対処するための科学として大きく進歩した。しかし、顕著で重篤な結果を伴う可能性のある健康影響の問題は影をひそめ、それに伴い毒性学への社会の関心やニーズも薄れてきているようにも見える。毒性学の研究対象は、生産活動より生み出された多種多様な化学物質であり、社会の姿にその存立の基盤がある。現在、私たちの社会は、産業構造の変化に加えて、気候変動など有限な地球への人間活動の影響により、大きな変貌を遂げている。にも拘わらず、毒性学の課題設定は依然としてその内部だけで閉じたものになっていないだろうか。社会の変化の中で、毒性学も新たな対象や方法を積極的に探っていくべき時が来ているのではないだろうか。本シンポジウムでは、現代の「毒性学」に求められているもの、あるいは期待を、毒性学を「外」から眺める立場の方々に問いかけていただき、毒性学との対話を通じて、そのあり方を考える場としたい。

6. 座 長

渡辺知保（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事長、
東京大学大学院医学系研究科名誉教授）

青木康展（国立研究開発法人国立環境研究所環境リスク・健康研究センター
／客員研究員）

7. 次 第：

13：30 開会の挨拶

菅野 純（日本学術会議連携会員、毒性学分科会委員長、日本毒性学会連携小
委員会委員長、労働者健康安全機構日本バイオアッセイ研究センター
所長）

13：35 インTRODクシヨN

青木康展

- 13 : 40 気候変動の健康影響と毒性学
橋爪真弘（東京大学医学系研究科、教授）
- 14 : 00 産業から見た毒性研究
（交渉中）
- 14 : 20 環境行政における毒性学の役割
早水輝好（国立環境研究所、プロジェクトアドバイザー）
- 14 : 40－14 : 45 （ 休憩 ）
- 14 : 45 環境内運命試験の現状と課題
北野 大（秋草学園短期大学、学長）
- 15 : 05 消費者が知りたい毒性情報
村上千里（日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会、理事）
- 15 : 25 人々のリスク認知のあり方と毒性学の知見との親和性
中谷内一也（同志社大学、教授）
- 15 : 45 質疑応答
- 16 : 10 総合討論
全演者、渡辺知保、青木康展
- 16 : 25-16:30 閉会の挨拶
那須民江（日本学術会議連携会員・中部大学生命健康科学部特任教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

（下線の登壇者等は、主催分科会委員）